

令和6年度  
教職課程  
自己点検評価報告書

令和7年2月  
宇都宮共和大学

# 目次

## I 教職課程の現況及び特色1

## II 基礎領域ごとの自己点検・評価3

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み3

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援7

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム10

## III 総合評価14

## IV 教職課程 自己点検・評価報告書作成のプロセス15

## V 現況基礎データ票16

## I. 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

(1)大学名:宇都宮共和大学

(2)所在地:シティライフ学部 栃木県宇都宮市大通り1-3-18  
子ども生活学部 栃木県宇都宮市下荒針町長坂3829

(3)学生数及び教員数

(令和6年5月1日現在)

|               |                                         |
|---------------|-----------------------------------------|
| 学生数: シティライフ学部 | 教職課程履修 16名/学部全体 252名                    |
| 子ども生活学部       | 教職課程履修 188名/学部全体 188名                   |
| 教員数: シティライフ学部 | 教職課程科目担当(教職・教科とも) 7名/学部全体 14名           |
| 子ども生活学部       | 教職課程科目担当(教職・保育者養成担当とも) 15名<br>/学部全体 15名 |

### 2 特色

#### (1) 沿革及び建学の精神

学校法人須賀学園は1900年、須賀栄子により栃木県最古の私学女子教育機関として宇都宮市に創設される。現在、宇都宮短期大学(1967年創設)、附属高等学校(1900年創設)、附属中学校(1983年創設)、宇都宮共和大学(1999年創設)を擁している。

須賀学園の建学の精神は全人教育(人間形成の教育)であり、「学生一人ひとりが持って生まれた優れた個性・能力・特質を最大限に伸ばしていく人間教育」である。(学生便覧)

#### (2) 教育理念

1. 人間尊重の精神と豊かな人間性へと啓培し、民主社会における真にのぞましい人間を形成する。
2. 円満な教養と高い徳性へとを培い、個々の徳性の伸長につとめ、心身ともに健康な人物を育成する。
3. 自主自立の気風を高め、忍耐力と実践究明の態度を涵養し、勤労と責任を尊ぶ人材を育成する。

#### (3) 教育目標

2つの学部の教育目標は、それぞれ次のように規定されており、これは4年間の大学教育を通じて学生たちを下記の目的に沿った人材を養成し地域社会に送り出すという意味で、各学部のディプロマポリシーにも通じている。(学則第1条内規)

・シティライフ学部ー豊かな都市生活の実現に貢献できる人材を養成する

- 1 「社会に対する幅広い関心と知識、高いコミュニケーション能力」の育成。
- 2 「情報を収集・整理し、創造できる能力」の育成。
- 3 「都市の諸課題を解決する能力」の育成。
- 4 「社会的ネットワークづくりに貢献できる能力」の育成。

・子ども生活学部—子どもの教育・福祉に貢献できる人材を養成する

- 1「子どもと共に生活を創る能力」の育成。
- 2「コミュニケーション力」の育成。
- 3「子どもが主体となる生活や社会を創りだす力」の育成。
- 4「子どもに関連する専門性」の育成。
- 5「理論を応用する実践力や洞察力」の育成。

(4) 取得できる教育職員免許状

本学は、文部科学省より下記のとおり教員養成の課程認定を受けている。

| 学部       | 免許状の種類                    | 免許教科     |
|----------|---------------------------|----------|
| シティライフ学部 | 中学校教諭一種免許状<br>高等学校教諭一種免許状 | 社会<br>公民 |
| 子ども生活学部  | 幼稚園教諭一種免許状                |          |

## II 基準領域ごとの自己点検・評価

### 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### (1) 基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有

##### 〔現状説明〕

##### 1 教職員間での共有について

教職課程運営については、両学部 of 教職課程専任教員が連携して学内の調整や指導の方針を検討し、教学会議において教職課程教育の実施に向け、専任教員全員がその目的・目標を共有している。子ども生活学部では、実習に当たって実習委員会からの報告を行い、望ましい実習指導について議論する場を設けたり、学生に対する向き合い方、指導方針などを共有したりする場を設けている。また、専任教員全員によって組織する「実習指導者連絡部会」を実施し、各実習段階における実習目標や個別の学生の状況と指導方針について学部全体で共有している。さらに、学生による教育実習報告会には、全専任教員が可能な限り参加し、今後の指導方針について検討する資料としている。

##### 2 学習成果の可視化について

教職課程関連科目について、学習記録や学習成果をまとめて、学修ポートフォリオの作成を推進している。それに加え、学期初めに立てた目標に向かって学修を進め、学年末に振り返る履修カルテを活用している。一年ごとの成長が一覧できるため、学生はこれまでの学びを容易に確認することができる。あわせて、成績一覧を科目区分ごとに示すことにより、教職に関する自身の学習成果について意識を向けさせることができ、教職課程の履修に対して意欲を喚起させることができる。

##### 3 学生への周知について

入学時のオリエンテーションにおいて、全体オリエンテーションを実施している。そこではDP・CPに加え、カリキュラムマップを示し4年間の履修の流れ、目指すべき教師像について周知している。さらに、「履修規程」や「履修チェック表」を活用し、教職課程履修における具体的な指導を行っている。

また、学年末に「履修カルテ」を活用して学びの履歴を確認するとともに、履修の継続に関して意欲を高めている。履修がうまくいかない学生には個別の指導を行っている。

##### 〔長所・特色〕

本学は各学部一学科で構成されているため、教員間で目標を共有しやすい。定期的に行われる教学会議では、必ず各委員会の情報提供があるため、適宜意見交換を行うことができる。学生に対しては教職課程履修のガイダンスを行う際に、各種資料を用い視覚化してカリキュラムの仕組みを指導している。

## 〔取組上の課題〕

教育目標やCP・DP・カリキュラムの仕組みについて定期的に周知は行っているものの、学生がどの程度理解し、科目の学修の目標を持っているのか、その実態把握は十分ではない。履修カルテの記入やポートフォリオ作成において、学びの振り返りが十分ではない学生もいる。1年次からDPを意識した指導が求められる。

〈根拠となる資料・データ等〉

## 【資料:1-1-1】履修規程

[http://www.kyowa-u.ac.jp/common/disclosure/2-4kitei\\_city.pdf](http://www.kyowa-u.ac.jp/common/disclosure/2-4kitei_city.pdf)

[http://www.kyowa-u.ac.jp/common/disclosure/2-4kitei\\_child.pdf](http://www.kyowa-u.ac.jp/common/disclosure/2-4kitei_child.pdf)

## 【資料:1-1-2】履修カルテ

## 【資料:1-1-3】カリキュラム・ツリー

[http://www.kyowa-u.ac.jp/common/disclosure/2-6city\\_curriculum.pdf](http://www.kyowa-u.ac.jp/common/disclosure/2-6city_curriculum.pdf)

<http://www.kyowa-u.ac.jp/childhood/course.html>

## 【資料:1-1-4】実習指導者連絡部会議事録

## (2) 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

## 〔現状説明〕

## 1 教員配置について

本学の教職課程においては、教職課程認定基準を踏まえた教員配置がなされており、専任教員のほかに実務経験のある教員を配置している。

## 2 全学組織について

全学の組織として、合同教職課程運営委員会を設置している。教職課程運営委員会は、教職課程の企画・運営、教職課程履修者の支援並びに地域関係者との連携に従事する。

教職課程の運営は、教職課程運営委員会が教職課程運営の方針検討を行い、教学会議で運営方針を協議し決定する。その方針の下、教務委員会が課程認定の教職科目の配置や履修状況を総合的な視点でとらえ整備するとともに、学生の履修状況を踏まえた対応を行い、「教育実習委員会(シティライフ学部)」「実習委員会(子ども生活学部)」との連携を図っている。各委員会は、学生の教育実習に向けた事前準備を含めて、実習期間中の指導や支援、さらには事後指導を行い、学生が充実した教育実習が行えるように指導している。さらに、子ども生活学部では子育て支援センターとの連携の下、地域の幼児教育施設や小学校との交流で学修を多様に展開するとともに、就職委員会と連携し、教職課程と就職の一貫性をもった支援を行っている。

また、学務課と連携し、教員免許状の申請関係等を執り行う。

### 3 自己点検・評価の組織的取組

自己点検・評価は学期ごとに行い、組織的な対応について評価・改善策を検討している。全学の自己点検・評価では、両学部で中間評価の結果とその改善策について情報を共有し、修正などを行っている。

### 4 教職課程の質的向上に関する取り組みについて

全科目を対象に授業評価アンケートを学期末に実施し結果を公表している。アンケートの結果は、担当教員にフィードバックし、それぞれの教員が次年度に向けて授業改善に努めている。

### 5 教職課程の情報公開について

教職課程に関するカリキュラムや教職課程運営組織、授業評価アンケート結果について大学ホームページにて公開している。

### 6 施設・設備の整備について

教職課程教育を展開するうえでの基本的な施設・設備を整備している。各教室に黒板又はホワイトボード、プロジェクタ又はモニターがあり、アクティブラーニング室には40台のPCが設置されている。また、学生は入学時にChromebookを入手し、遠隔授業やデジタル課題などに対応できるようになっている。その他に、子ども生活学部では保育実習室や音楽室、調理実習室等、実技・演習を目的とした教室整備がなされている。

### 〔長所・特色〕

各学部には、実務経験のある教員が在籍し、実習事務、講師を含めた協働体制を構築している。実務経験のある教員は実務経験を背景とした実践的な指導を行うことができている。また、教員と学生の距離が近く、講義に欠席した学生には教員から個別に連絡をとり状況確認をするなど、日頃から相互にやりとりができている。

### 〔取り組み上の課題〕

授業アンケートについて、質問項目が講義形式の内容に偏りがちであることや、学生が主体的で対話的で深い学びを体感できているかどうかの評価できる項目がないことから、見直しが必要となっている。施設・設備に関して、学内のWi-Fiがつながりにくい場所が一部あるため、学生が持参するChromebookとアクティブラーニング室の活用を両面で進めていく必要がある。

### < 根拠となる資料・データ等 >

#### 【資料:1-2-1】 教員の養成に係る組織

<http://www.kyowa-u.ac.jp/guide/pdf/teacher-2-1.pdf>

#### 【資料:1-2-2】 実務経験のある教員による授業科目一覧

[http://www.kyowa-u.ac.jp/common/disclosure/2-3syllabus\\_city.pdf](http://www.kyowa-u.ac.jp/common/disclosure/2-3syllabus_city.pdf)

[http://www.kyowa-u.ac.jp/common/disclosure/2-3syllabus\\_child.pdf](http://www.kyowa-u.ac.jp/common/disclosure/2-3syllabus_child.pdf)

【資料:1-2-3】 教職課程運営委員会 自己点検評価PDCA期末報告

【資料:1-2-4】 教職課程に関するカリキュラムの公開

<http://www.kyowa-u.ac.jp/guide/teacher.html>

【資料:1-2-5】 R6交流保育計画(子育て支援研究センター年報2024)



## 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

### (1) 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成 〔現状説明〕

#### 1 卒業認定・学位授与方針を踏まえた教職課程履修の基準について

教員を志す学生に対し、オリエンテーション時にDPやCPについて説明し、履修カルテの指導につないでいる。「学生便覧」や「教職課程履修の手引き(シティライフ学部)」「実習の手引き(子ども生活学部)」にて実習履修規程及び実習配属規定を定めるとともに、実習配属に必要な基礎要件と必要修得科目を定め、学生に周知している。

#### 2 学生募集・選考について

大学全体の収容定員の充足率を高めるためのアドミッションセンターが、入試・広報委員会と連携し、入試広報活動を効果的に進めている。選考においては、対人コミュニケーション力などの適性を重視している。また、奨学金制度の充実に努めており、入試成績の優秀な者に対して授業料や入学金の全額または半額を給付する制度がある。オープンキャンパスにおいても、教員免許状取得者の卒業生を招いての「卒業生対談」を実施し、本学教職課程のPRの一助としている。

#### 3 教職課程履修の支援について

入学後のオリエンテーションでガイダンスを実施するとともに、シティライフ学部では教職課程履修希望者に対して、1年次前期に教職課程履修に当たっての事前学習となる「教職ガイダンス」(4月から7月まで計6回)を開催して指導している。子ども生活学部では学期ごとに個別の面接を行い、教職課程履修の意欲を確認し継続を支援している。また、当該教職課程に即した適切なコミュニケーション能力を科目全体で育成している。

#### 〔長所・特色〕

教職課程履修に関する学生の指導・助言を適宜行っている。また、実習の段階ごとに、きめ細かい個別指導を行い、教職に関する意欲を喚起している。

#### 〔取組上の課題〕

合理的配慮を求める学生へのシステムを運用し、学生の教職に対する意欲を生かす支援をしている。

#### < 根拠となる資料・データ等 >

#### 【資料:2-1-1】奨学金制度概要

<http://www.kyowa-u.ac.jp/campus/scholarship.html>

#### 【資料:2-1-2】教育実習履修規程

## (2) 基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

### 〔現状説明〕

#### 1 学生の教職に就こうとする意欲や適性の把握について

教職課程履修者に対しては、履修1年目から教員免許取得まで毎学期の始めと終わりに「履修カルテ」を継続的に作成しており、学生が年次・学期ごとに総括・評価し、自身の課題を明確化することでより望ましい学修を展開する資料とするとともに、指導担当者が効果的な学修支援を実施する際の資料としている。教員免許状取得に向けて、各年次の履修科目の成績・成果と課題などを振り返る場を持ち、今の自分は何ができて何が課題であるのかを自覚できるようにしている。指導担当者が記入内容を確認し、必要に応じて個人的に指導・助言・相談を行っている。

#### 2 適切なキャリア支援の組織的な実施について

4年間を通じたキャリア教育で自分の適性を把握し、就職委員会においてキャリア形成を目指したインターンシップなどの情報提供を行っている。

子ども生活学部では地域の連携園とのかかわりを基に、1年次から交流保育を位置付けており、働く保育者の姿に触れる機会となっているとともに、実習先を自分で調べて希望する形態をとっているため、幼稚園や子ども園の情報を把握することができており、実習先調べが就職先の決定の大きな要因になっている。

#### 3 教職に就くための各種情報の提供、教員就職率を高める工夫について

教職に就くために必要と思われる情報は就職委員会と連携し、求人情報を学生自らが閲覧できる環境を整えている。

シティライフ学部では、毎年秋には臨時教員の募集説明のため、宇都宮市教育委員会の人事担当者に来学していただき、学生からの様々な質問にも応じて頂くなど、キャリア支援のよい機会となっている。更には栃木県総合教育センターで開催している、教師を目指す学生等を対象とした「とちぎの教育未来塾」について紹介し、受講を勧めている。

子ども生活学部では、先輩保育者を招いて、保育職のやりがい、充実感、成長したきっかけなどについて話を聞き、教職の魅力を聞く機会を設けている。さらに、就職先の情報を得るために、栃木県幼稚園連合会や私立保育園連盟、福祉関連の法人と連携し、開催される就職説明会などに積極的に参加することを奨励し、情報の収集を援助している。また、就職指導の際には、保育士指定の奨学金を受給している学生でも、教職に就きたいと希望する者については、認定こども園の情報を提供するなど、教職への希望が実現できるようにしている。令和5年度卒業生49名中、教育職員免許状取得者は41名、教員就職者13名であった。なお、保育士資格取得者は45名、就職者47名のうち38名が幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を活かして就職しており、取得した免許・資格を生かした就職率は80%である。

#### 4 キャリア支援の充実について

就職委員会が行うキャリアガイダンスなどの啓発など、教学会議で情報の共有を行い担任、卒業研究指導教員、教職課程運営委員会、各科目指導教員が連携し、年次に応じたきめ細かな個別支援を行っている。

〔長所・特色〕

シティライフ学部では、公立学校教員採用試験の合格にはなかなか至らない状況にあるが、近年は私立高校、広域通信制高校や高等専修学校の社会科専任教員として合格・採用者が続いている。

子ども生活学部では、学生自身が実習先を選ぶ際に情報収集ができるため、就職の際にも友人と情報を交換するなど、自分の適性に合った幼稚園、子ども園を探すことができる。自分の就職先を求めて、幼稚園関係団体の説明会や求人票にて、自分に合う就職先を探してキャリアをスタートさせている。

〔取組上の課題〕

シティライフ学部では、例年数名が公立学校教員採用試験を受験しているが、なかなか1次試験を突破できない者が多い。効果的な試験対策、学力が不足している学生への支援の在り方が課題である。

子ども生活学部では、教員免許を生かして教職に就きたいと希望する学生もいるが、保育士資格を生かして就職したいという学生もあり、幼稚園教員への就職を積極的に勧められない現状にある。

＜根拠となる資料・データ等＞

【資料：2－2－1】就職委員会 自己点検評価PDCA期末報告

### 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

#### (1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

##### 1 建学の精神を具現する特色ある教職課程教育について

本学の設置理念は、全人教育(人間形成の教育)であり、「学生一人一人の持って生まれた優れた個性・能力・特質に応じて最大限に伸ばしていく人間教育」である。全人教育を目的とする本学は、人間存在への深い知識と理解を持ち、すべての人間に対する愛情と尊重の心を持つ人材を育成することを目的としている。また、本学の教職課程カリキュラムは、文部科学省の教職課程コア・カリキュラム、本学の教育目的・目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー等に基づいて編成されている。子ども生活学部4年次の「現代教養講座Ⅳ」では、本学の建学の精神である「全人教育」を、教職を目指すものとして再確認する講座となっている。

##### 2 教職科目と学科開設科目との系統性の確保とコア・カリキュラムへの対応

教職課程科目および保育士資格取得のための科目の共通性を基盤としたカリキュラムを編成している。また、教職課程コア・カリキュラムを踏まえた体系的なカリキュラムが編成されている。シラバスには上記の項目やカリキュラム・ツリーのほか、各科目の授業概要、到達目標、学習内容、成績評価の方法・基準等を記載している。

##### 3 今日の学校教育に対応する内容上の工夫について

学びの三観点や主体的で対話的で深い学びについて、各科目の指導法や「教職実践演習」「保育・教職実践演習」の授業内で取り上げ、定着を図っている。また、Chromebookを活用したGoogle Workspeceでの資料、課題、ループリックの提示とフィードバック等によるICTを活用した指導を行っている。また、栃木県教育委員会の指標に示された採用時の姿を意識し、教職関連科目においてそれぞれの専門性を生かしての指導を進めるようにしている。

##### 4 学生間の協働による課題発見力・課題解決力、価値協働を育成する場の設定

シティライフ学部では、「教職実践演習」において教育実習を終えた4年生全員から、3年生の教職課程履修者に対し来年度の教育実習に向けての体験談・助言をしてもらう場を設けている。3年生は4年生からの体験談を真剣に傾聴し、4年生は自己のプレゼン力の確認にもなるなど、お互いに有意義な時間となっている。

子ども生活学部では、「保育・教職実践演習」において発達の連続性を学ぶため、地域の小学校1年生クラスで指導補助の実践を位置付け、幼児期に経験しておくべき内容などの考察を行ったり、模擬園外保育を実際に実地で行い、経験させたい内容や幼児の安全管理、保護者への発信など、スケジュールを見通し、質の高い園外保育に改善することを実践したりしている。

また、幼児の発達過程に合わせ保育計画を立案し教材研究を行い、地域の就学前施設幼児に対する保育を「保育内容総合演習Ⅳ」で実践し、振り返り、保育を改善していく力を育成している。

## 5 「教職履修カルテ」等を用いた指導について

「教職履修カルテ」を用いた定期的な面談・指導を行っている。4年生秋学期の「教職実践演習」「保育・教職実践演習」の初回に「教職履修カルテ」の記入状況を振り返り、自身の課題や学びが不十分な点を確認する機会を設けている。学生はそれを踏まえた上で、学びたいことや教職に就くに当たっての心構えを意識化し学修している。

### 〔長所・特色〕

建学の精神に基づき、自分の強みを活かしながら社会で活躍できる人材の養成を推進している。シティライフ学部では、学修の一環として毎年11月に2年生を対象に宇都宮市内の中学校で「教職現場学習」(半日)を実施している。また、3年生は1年後の教育実習を見据え、4年生が教育実習中の学校を訪問し、先生方の授業や教育実習生の研究授業を参観させて頂く「観察実習」を実施している。

子ども生活学部では、建学の精神の集大成としての講座を設け、学長や地域の文化人などの方々からのオムニバス形式での学びをしている。教職課程科目と保育士養成課程科目の共通科目と個別科目の連携を図り、効率的かつ柔軟なカリキュラムが編成されている。さらに、自分の強みを育てる6つの履修コースで、自信をもって教職に就けるカリキュラムにもなっている。さらに、「保育・教職実践演習」や「保育内容総合演習Ⅳ」では、地域の幼児や学童と直接触れ合い、自分の課題を解決するプログラムが編成できている。

### 〔取組上の課題〕

ICTの活用においては、教職において有用な活用の知識技能の獲得を目指すカリキュラムの工夫が求められる。

### ＜根拠となる資料・データ等＞

#### 【資料:3-1-1】シラバス「教職実践演習」「保育・教職実践演習」

<https://drive.google.com/drive/folders/1GNYjrDDuwhEWffx8fyhPsMnR0RLwUhqI>

[https://drive.google.com/drive/folders/1n81u67v8InI7YFp8UApbblPoTGssgK\\_j](https://drive.google.com/drive/folders/1n81u67v8InI7YFp8UApbblPoTGssgK_j)

## (2) 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

### 〔現状説明〕

#### 1 実践的な指導力を育成する機会の設定について

シティライフ学部では、教育実習を原則として宇都宮短期大学附属中学校・高等学校で実施しており、3週間の実習期間中に教職課程担当教員が指導訪問している。教育実習は4年次の5～6月に実施しているが、事前指導として2年次の「教職現場学習」、3年次の「観察実習」、実習直前の「学長訓示」等を実施している。

教育実習中には、「教育実習記録簿」を毎日記録し、指導教諭に点検して頂く。実習終了後、この記録簿の内容を基に報告会を開催して一人ひとりが教育実習を振り返る。

子ども生活学部では、保育内容や指導法において、地域の幼稚園やこども園で、子どもを観察したり保育助手を体験する機会を設けたり、地域の幼児教育施設との交流保育で保育を提供したりしている。

また、地域の幼児教育施設との交流保育に加え、「保育・教職実践演習」における架け橋期に焦点を当てた小学校における演習や、園外保育を想定した模擬保育と、その振り返りを通して自分の教育観の見直しと実践への意欲に繋いでいる。さらに、子育て支援研究センターで運営する「親子遊びの会」「tiny」などの子育て支援活動や「ミナテラス講座」「クリスマスマーケット」「自然体験活動(バーベナ)」などの地域貢献のボランティア活動を推奨し、振り返り実践発表の場を設けるようにしている。

## 2 関係団体との組織的な連携・協力体制の構築

シティライフ学部では、教育実習期間中の実習生の研究授業参観をはじめ、学生と面会しての状況把握、激励の言葉かけのほか、指導教諭と面会し、意見交換や情報収集等を行っている。

子ども生活学部では、実習協議会において実習配属園と大学が実習について共通理解を図るとともに、育成する人材像を共有し、共に未来の教員を育てる体制を整備している。また、幼稚園関係団体主催の連絡会において、実習・キャリア支援の観点で定期的に意見交換を行っている。そのほか、地域貢献活動として、幼児教育施設団体の研修会等への講師の派遣を行っている。

### 〔長所・特色〕

シティライフ学部では、本学教職課程を履修する学生の学修(社会科・公民科教育法Ⅰ)の一環として2年次を対象に「教職現場学習」を実施しており、地域との連携を視点として市内の中学校を訪れ、教職員の指導を受ける中で、教育成果や教育課題に触れるとともに、教職の意義や特質を学び、教職の認識を深化させる機会としている。現場学習の主な内容は、社会科の授業参観、特別支援教育の取り組み、「今日の教育課題」と題しての教員の講話(近年は「本校のICT教育の現状と課題」をテーマに話を頂いている。)と質疑応答等からなっている。

子ども生活学部では、地域の幼稚園やこども園と連携し、学生が教育体験できる機会を数多く設けている。また、地域の幼児教育施設の団体との連携は子育て支援研究センターとの連携のもとに継続的に実施されており、強みと言える。

### 〔取組上の課題〕

両学部とも、実践的指導力養成のための体験、ボランティア活動等への参加促進。

＜根拠となる資料・データ等＞

【資料:3-2-1】シラバス「保育指導法Ⅰ」

[https://drive.google.com/drive/folders/1n81u67v8InI7YFp8UApbbIPoTGssgK\\_j](https://drive.google.com/drive/folders/1n81u67v8InI7YFp8UApbbIPoTGssgK_j)

【資料:3-2-2】教職現場学習実施報告

【資料:3-2-3】親子遊びの会報告書(子育て支援研究センター報告書)

### Ⅲ 総合評価

本学の教職課程における指導は、学生一人一人の特性に合わせた、きめ細やかな支援や教育現場の在り方に合わせた臨機応変な考え方を重視しながら取り組んでいる。教員及び職員から組織される各種委員会や会議等が機能し、教職課程にかかる目標の共有、成果や課題の確認など、全学的な共通理解が、目標の達成に寄与している。また、教育者・保育者不足の問題に対しても、学校現場や幼児教育施設の団体とも密に連携しながら教員養成に取り組んでいる。

こうした教職課程全般に係る強みと今後改善すべき課題について、基準領域ごとに整理する。

基準項目1「教職課程にかかわる教職員の共通理解に基づく協同的な取組」では、両学部の教職員が、定期的に教職課程運営委員会をはじめ実習指導者連絡部会、教授会等を通じて共通理解のもと、一人一人の学生への指導の方向性を共有しており、教員養成の充実に向けた意識が醸成されていることが強みとして考えられる。一方、改善されるべき課題として、学生の教育目標やCP、DPの理解度を高める工夫が必要なことがあげられる。

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」においては、オープンキャンパスや大学ホームページ等を通じて、教職の魅力を発信するとともに、実習指導やクラス懇談などの個人別指導の折に、学生一人一人の資質の向上を図っている。この取り組みについては、引き続き充実させていきたい。子ども生活学部について支援されている奨学金によっては、保育士資格をもってキャリアをスタートする学生も、教員免許状をもち幼児教育の理念をもって保育に当たれる強みがあるため、両方の免許資格の取得を奨励し、キャリアスタートのための支援を行っていく。

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」においては、建学の精神に基づき、教育の振興と社会の向上に貢献し、子どもが育つ家庭環境、地域における自然環境、社会環境とのかかわりを総合的・体系的にとらえることを重視したカリキュラム編成を実施している。特に、実習指導を中心として、関連科目を連携し、実践力を高める編成が強みと言える。また、学生の得意分野を伸長するための履修モデルにより、学生が自分の強みを意識できることも強みである。一方、改善すべき課題として、教職課程を履修する中で教職への意欲を高める学生が多数いる一方で、教職への志望意欲が低下する学生もいる。実習配属や実習で学ぶべきことの重点化等の工夫改善が求められる。



#### IV 教職課程自己点検評価報告書の作成プロセス

令和6年 10月 各学部の教職課程運営委員会で本編の草案作成

令和7年 11月 大学合同教職課程運営委員会で草案をもとに全体調整

資料と本文の関連確認

令和7年 2月 各学部の教職課程運営委員会において最終確認、完成、学長に提出

2月 各学部教授会にて報告

3月 自己点検・評価委員会、内部質保証会議に報告

## V 現況基礎データ票

(令和6年5月1日現在)

|                                  |          |     |         |    |     |
|----------------------------------|----------|-----|---------|----|-----|
| 設置者 学校法人須賀学園                     |          |     |         |    |     |
| 大学・学部名称 宇都宮共和大学 シティライフ学部 子ども生活学部 |          |     |         |    |     |
| 学科名 シティライフ学科、子ども生活学科             |          |     |         |    |     |
| 1 卒業者、教員免許取得者数、教員採用者数            |          |     |         |    |     |
| 1 卒業者、教員免許取得者数、教員採用者数            | シティライフ学部 |     | 子ども生活学部 |    |     |
| ① 昨年度卒業者数                        | 73       |     | 49      |    |     |
| ② ①のうち、就職者数                      | 66       |     | 47      |    |     |
| ③ ①のうち、教員免許取得者の実数                | 7        |     | 42      |    |     |
| ④ ②のうち、教職に就いた者の数                 | 0        |     | 13      |    |     |
| ③ のうち、正規採用者数                     | 0        |     | 13      |    |     |
| ④のうち、臨時的任用者数                     | 0        |     | 0       |    |     |
| 2 教員組織                           |          |     |         |    |     |
|                                  | 教授       | 准教授 | 講師      | 助教 | その他 |
| 教員数                              | 15       | 8   | 6       | 0  | 0   |